

中川根ふる里通信

= 第8号 =

編集・発行 モア・ラブ中川根
 連絡先 〒428-003
 静岡県榛原郡中川根町上長尾990
 中川根町役場 総務課
 ふる里通信係
 TEL・0547(56)1111
 郵便振替口座(855)7-81556



千葉山智満寺 千手観世音菩薩立像

昭和54年3月5日 町有形文化財指定

写真提供
 高郷 諸田秀男さん

年頭にあたって

教育長 八木 恕

みなさまには、御健勝にて昭和六十三年の新春をお迎えになられたことを心からお慶び申し上げます。

「中川根ふる里通信」第八号の発刊にあたり、「ごあいさつ」の一端を申し上げさせていただきます。

本町の教育行政も時の流れとともに大きな変化をもちまわってまいりました。ふる里を離れて生活されている方々も幼い頃に学ば育った母校を偲びながら、想像もつかない時代の変化を痛感されていることと思っております。

町村合併後の昭和三十三年の資料によると当時の小学校は分校を含め十一校、児童数は一七九六名でありましたが、現在は四校、児童数五四九名となり、一、二四七名減少しております。

中学校は三校で生徒数六一三名でありましたが、現在は一枚で生徒数二九七名で三、一六名の減少となり、山村人口の流動化がもたらす時代の変化を痛切に感じます。

しかし、児童、生徒は大変素直で、社会的問題もなく幸せな反面、意欲に欠ける面も見受けられ、自主、自立心の育成が課題であります。

社会動向の急速な変化に伴い、日本の教育も大きな改革が求められており、明治五年の学制をはじめとし、第二次世界大戦後の激動期における第二の教育改革が行われ戦後のわが国の教育基本を定めた教育基本法、学校教育法が定められ新しい法律に基づいて進められてから、戦後四十年を経過し、今日わが国における社会変化および文化の発展に対応する教育の実現を目指し、二十一世紀に向けての国際化、情報化、高齢化の時代に即応する教育が進められようとしており、町教育行政も新たな時期を迎え、学校教育、社会教育の課題究明を図らなければなりません。

ふる里中川根に住む子どもたちの、豊かな心、ひろい心、たくましい体を鍛えながら、立派な人間として二十一世紀の社会を担う一員として成長されることを期待するものであります。

教育委員会も先人が築かれた多くの文化遺産を後世に受け継ぐため、保存、保護に努めておりますが、みなさまが幼い頃に耳にされた「むかし話」を埋もれることなく未来に伝えるため、四十話にわたる伝説をまとめ、「中川根のむかし話」として発刊する運びとなりました。

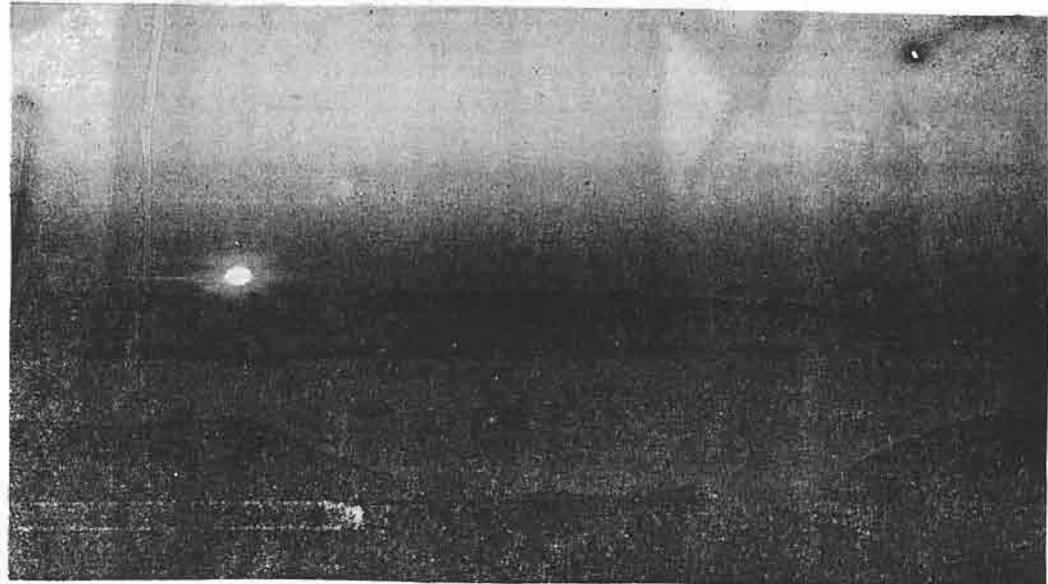
多くの方がふる里中川根を偲び愛読されるんことをお願いいたしますのであります。

この町に住む私たちは「明るく住み良い町づくり」を目指して、お互いの役割を果しながら頑張ってまいりたいと存じますので、今後共々よろしく御指導を賜りたくお願いを申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



初日の出

昭和六十三年元旦



「中川根のむかし話」の発刊にあたって

私たちの祖先が、自然とかかわり、動物たちとのふれあいの中で、体験し、経験したことが、数百年にわたって語り継がれてきた。この中川根のむかし話は、中川根町にとって貴重な財産であり、かけがえのない文化であります。

中川根に残るむかし話を是非保存していきたいという人達の熱意により、三年間の作業を終えて、ここに発刊する運びとなりました。

内容は、より多くの方々に愛読いただきたいという願いから、昔のおいにする言葉や文字は極力残すように努め、挿絵やカットも町内小中学生に依頼し、現地の写真を入れて解説し、だれが読んでも親しみ易い、読み易いものにするよう編集に努めました。

また、装丁も末永く愛読できるように上質のものを使用しました。

是非、ご購入ください。すようお願ひ申し上げます。

あなたのおふる里のむかし話とあなたのお手もとに、どうぞ。

中川根町教育委員会

予約申し込み方法

定価 1,000円
 郵送料 300円
 計 1,300円

申し込み方 注文冊数と、御住所、御氏名はつきりお知らせ下さい。

① 葉書で 〒428-03
 住所 静岡県榛原郡中川根町上長尾627
 中川根町山村開発センター内
 中川根町教育委員会 宛

② 電話で 中川根町教育委員会 宛
 0547-56-0734
 午前 8:30 ~ 午後 5:00

申し込みの日は 2月20日です
 お届けは、3月中旬 ~ 下旬になります。
 本が到着次第所定の振り込み用紙にてお支払願うようになります。



取り上げたお話し

- あんけんさん
 - たつう桶宜
 - 愛宕地蔵
 - 四郎作ティックター
 - 馬の孝行
 - 西上嶺の平松
 - 堂屋敷の話
 - 社宮子さん
 - 天水
 - 天王山と姫宮さん
 - 堀田の水
 - 恋の代
 - 見返し峠
 - 木刀洗い沢
 - たぬき和尚
 - ときとんの足あと
 - 背負山
 - ほんたりとげんしゃくぼり
 - 六地蔵
 - 堂山の空
 - 解説
- たんろく測
 - おろくほの大蛇
 - すりはちくほの大蛇
 - ダイダラボッチとたもと石
 - いたずらおせん
 - 信州猫植家
 - ほうす岩
 - 大頭龍
 - 一音さん
 - 千頭堂
 - おほいせ段
 - 山犬
 - 大日如来
 - 馬ん場と馬水
 - あみだによらい
 - 川除地蔵
 - わん測
 - 又兵衛もう一綱
 - 西楽寺の狸
 - 虚空蔵さん



その8

母校は今

久保尾小学校



回想

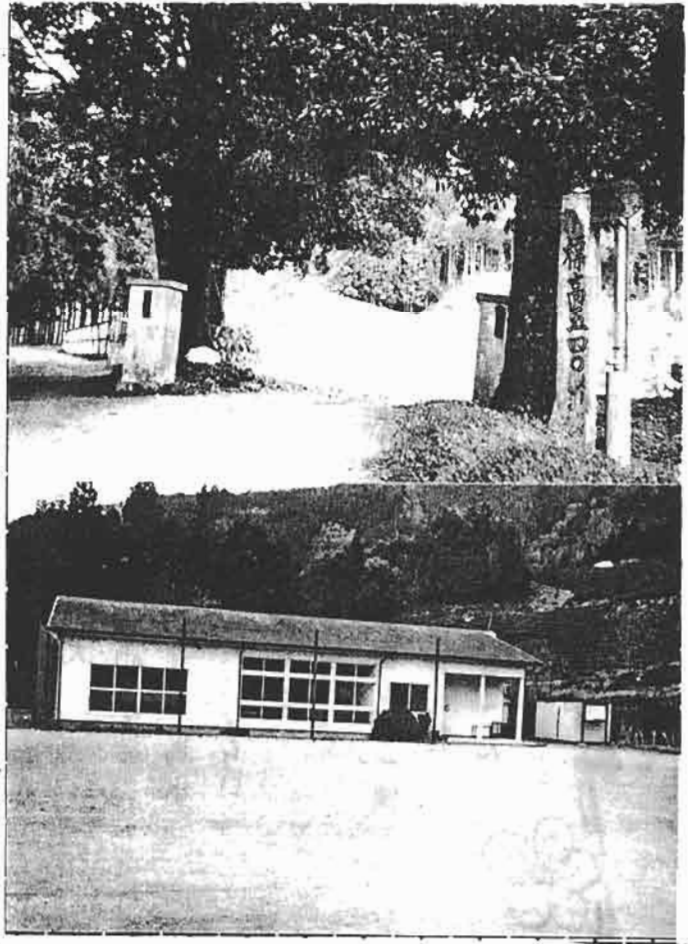
昭和三十年卒業

岩間 篤

昭和六十二年の年の瀬、電話のベルがけたたましくなり、受話器を持った私の耳に聞こえたのは、私へのふる里通信への投稿の依頼であった。二つ返事で受けたものの、コタツに入り考えてみると、今さらながらえらいものを引き受けたものだと後悔しておりますが、私なりに昔の事を思い浮べてみようと思えます。

私の学んだ久保尾小学校は、昭和四十九年に開校百年を迎えました。その開校百年誌によると、明治七年三月、長泉庵と言ってお寺を学校として開校されたこと示されており、その後久保尾小学校として発足されたようです。その当時から植えられていたと言われる杉の園が、今でも四く五本残っており、当時を憶はせております。

私が久保尾小学校に入学したのは、桜の花の咲きほころぶ昭和二十五年四月の事でした。その当時の学校は、別棟で二棟あり、その間が空いていて、冬は風を越し、日だまりになって、羽目板に、



らりと並んでよく似たまぼこをした思ひ出があります。校舎の西側には、大きな榎の木の多い、小高い山があり、遊び道具の少ない当時、休み時間には登ったり降りたりしてよく遊んだものでした。その山の頂上には、初代久保尾小学校の校長だったと言われる、岩間梅吉先生の石碑が建てられておりました。その山も校庭の拡張と言う事で、徐々に削り取られ、今はそのおもかげもありません。石碑も今は、校門の横に移されて、大きな榎の木と共に、今はなき校舎を見守っております。百有余年の歴史をもった久保尾小学校も、昭和五十一年四月、皮肉にも私の長男が入学するその年に、現在の南部小学校に統合合併され、いろいろの思ひ出を残し、我が学舎も幕を閉じ、その事になったのでした。今は校舎も取り壊され、新たに久保尾集会所が建ち、区民の憩いの場として、老人クラブのテートホール、子供達の遊び場として利用されており、学校の思ひ出として給食室は、そのまま残されて、現在集会所の勝手場として使われており、昔のふるさとを偲ばせております。今はなき小学校の思ひ出を大切に、久保尾小学校出身の皆様の御繁栄を祈り、久保尾区のみならず、発展を望み、ここにペンと置きます。

山犬段の原生樹林

元中川根町長 鈴木七藏

今年私は私が中川根町長を止めてから丁度二十二年になる。

町長に就任したのは昭和三十五年の改選時で、年は四十九才であったと思ふ。二期八年を詰め五十七才で退任しているのに、喜寿の七十七才になる私にとつては早くも二十年の歳月を経たことになる。

今過ぎ去つた當時を思い出して見ても余り強く印象に残っているものもない。

町としては旧中川根・徳山両村合併後の諸問題をかかえていたが、部下に優秀な職員がおり、議会の全面的な協力もあつて、何んは件目を処理するに當つても苦勞したと云う気遣はない。

私は元來、余り過去に拘泥せず常に前を向いて歩こうと信条としてゐるので、年をとつて記憶も薄うけた。今、特別に思い出すこともないが、今でも努力して良かったと思つてゐるのが、山犬段の原生樹林の保存であり、県立自然公園への指定である。

私が町長に就任して間もなく、当時の東京営林局長花園一郎氏によつて南赤石幹線林道の構想が打ち出された。

花園氏は、鹿児島県出身だが旧制静岡高校を経て東京大学に進んだ人で、静岡当時山岳部員として南アルプスには幾度も登山しており、その地形や状況を身も以て体験されてゐた。

それが東京営林局長としてこの地帯の国有林が自分の所管に入ったこともあり、中川根町を起点として国有林を横断し、長野県遠山村に至る壮大な林道計画の立案となつた。

着手するまでは、色々の曲折があつたが、気象の在る尾呂ス保までを中川根町が林道として補助を受けて行ない、その先は営林局直営で、町有地の官行造林地帯を通り、千頭営林署所管の国有林へ延びて行くことに決定した。

工事は順調に進み二年後には大仏山の麓を通過して山犬段まで到達するようになった。

私もこの雄大な工事の進行状況を視るため暇があれば車で現地を見に行つたものがある。



保全された 山犬段の原生樹林



昭和40年ころの南赤石林道 ミツ星山中腹より撮る

開通と同時に営林者による伐採作業も始まり、保存を希望していた大乳山周辺の業主林も、またたく間に伐採され無惨な姿を残している状態を見て、私々当初画いていた状態と相違するものと感じた。

営林者とすれば多額の投資は不採出のためのものであり、国有林会計の損益を表す特別会計のような組織になっていくこともあって、営林署に話しても、営林直は観光道路ではなく、あくまで経営林直であるとの主張が取り合ってくれない。特にこの時の千頭営林署長は大手出たりの若く官庁的に入物であった。

大乳山は既に伐採され終ったので次の望みは山大段である。この地帯は山出地帯、はるか昔千頭山台地で、昔は山犬の群をなして栖んでいたが、この名があるのかも知れない。少数ヘクターに及ぶ平地で、樹皮ブナの老木が、突に見事に林立していた。

営林者には、町有地と林直のために林立していたこと、取合林直と町有地で行ったことなどをあげ、原主林の一部保存を要望した。山大段は当初から野木場として予定しており、他に適当な場所が無いので要望に心えられぬとの素気無い返事であった。その後、日参した場所が開かず、くすくすしている伐採されて終ったことが判ったので、この上は、営林局へ直接談判するよりほかには方法はないと考へ、方針を一転して東京営林局への陳情に切り替えた。

計画立案者の花園氏は既に衆議院へ立候補のため退職しておらず、担当部長や現局長にも面接して陳情した。これも千頭営林署同様の返事で、この件は局内で野木場に決定しており、他に適当な箇所が無い以上、林道開設の目的から言っても野木場として使用することを変更出来ない、と言うことであった。

それでも、月数回に及ぶ陳情を行ない、担当部長だけでなく、部長会議の主要メンバーにも陳情書と携えお茶を持って行っては協力を要請した。

現在、本川根町収入役の大倉氏も当時東京営林局の課長であったので、廊下などよく出合ったが、又陳情でずかると笑われたり、毎回お茶を持って行くので課長連中から、度々川根茶(買わねい茶)もありかとうなどと皮肉を言われたりもした。

月数回に及ぶ陳情も進展がなく、今度は農林省の林野庁へ行った。営林局の方針が決定しているものを林野庁として変更は出来ないとの冷淡な返答しか返って来なかった。

当時地域選出の代議士は現代議士大石十八氏の父親大石八治氏であった。同氏にも事情を話して、営林局や林野庁へ同行してもらったが、同氏はまた一年生議員で余り力がなく、態のよい返事で、うやむやにされる程度の結果しか得られなかった。

私は神田博代議士秘書の現泉議員、自民党県連幹事長の河畑房次氏を学生時代から知っており、同じ川根出身で気心が合うので、本省や議院陳情は神田氏の議員会館の室を根拠地にして、最終的にこの事件のなり行を同氏に話して方法について意見を聴いたところ、それでは、うちの先生に話してみる、と言って早速神田先生に話をしてくれた。

政界と言うのは面白いので、お互いに代議士間で選挙区の問題については、天々助け合ってゆく、貸し借りを作っており、神田先生は、厚生大臣を二回も経験しており、各議員に対して相当の貸しがあり、農林省には誰を頼めば最も効果があるか、と良く知っておられた。

この林に経過を経て、神田先生から、或る農林族のボス的存在である有力な代議士を紹介していただくことが出来た。その代議士が誰であったか、今は忘れてしまったが、その代議士のおかげで、直接農林大臣に面接陳情が出来ることになった。

今でもよく覚えておられるが、予て打合せた日は、その先生と同行して農林省分室で直接大臣に面会することが出来た。

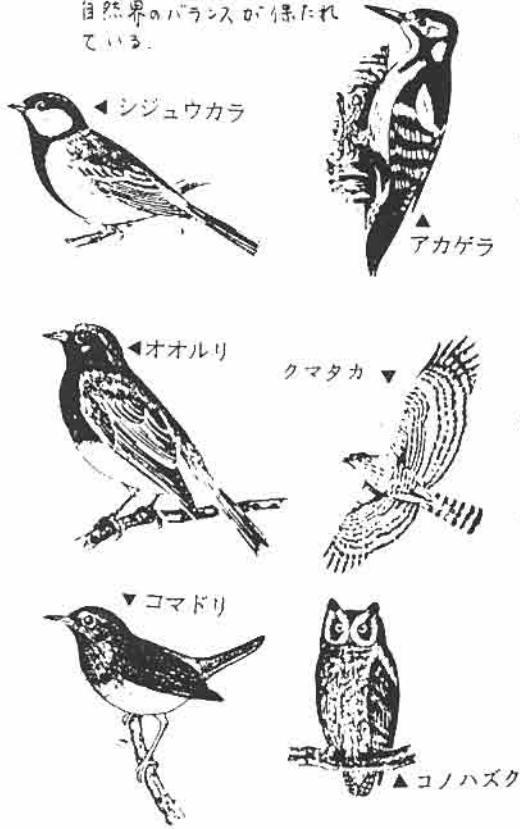
その時の農林大臣が誰であったか、これも忘れてしまったが、大臣の前で私が少々硬くなりながら、陳情すると大臣は傍の秘書に「林野庁長官を呼べ」と言った。数分後に長官は車に駆けつけて来た。

大臣は長官に「君、この中川根町長の陳情を聞いてるだろうが、悪い話でない、町長の要望を聞いてやれよ。」と言われた。

私はこの時長官から営林局の事情について一応の説明と反論があるものと心配した。傍には農林族のボス議員がいるし、農林大臣の一声で長官は「ハイ、承知致しました。」といとも簡単に承諾をしてくれた。

山犬段周辺は野鳥の宝庫

緑豊かな林には、実の成る木々、昆虫も多く生息している。自然界のバランスが保たれている。



昭和四十年四月、第十六回果樹祭が南赤石林道の尾呂久保地区内で行なわれた。県下から集まった参加者は数百名にのぼり沿道は車でうすまり町始まって以来の盛大なイベントとなった。当時の斉藤寿夫知事も来たので、式終了後同じ車で山犬段まで案内したが、道路の自陰には、まだ雪が残っていたことを覚えておいて。

その後営林局に行ったら「町長は何うして選挙区でもないのにあの先生を頼めたのか」と聞かれたりした。この結果、営林署は新に貯木場をさがすことになり、尾呂久保地区の民有地を買い上げ、多額投資をし、難工事の未貯木場を作ったが、営林署として山犬段の貯木場に固執した事情が判り、何か申し訳ないような気持ちにもさせられた。

私は大臣の力の大きさに今更のように驚くと共に、代議士が官僚に対して、どんな地位にあるかを思い知らされると共に、官僚行政をチェックするのは、やはり議会判民主主義であることも知らされた。後から冷静に考えて見ると、私にとっては精魂を傾けた大問題であったが、農林省としては、広大な国有林事業の中の一些事にすぎない問題であったのである。又経過から考えると、大山持の山番当が威張ったようなものであり、官僚が自己の権限を嵩に着て地域の町長に抵抗したものであったとも言える。

あれから二十数年が過ぎた。植祭と植えたばかりの森に成長し毎年きれいな花を咲かせてくれることとあうり。その後、山犬段は県立自然公園に指定され、町営の山小屋も造り誇大のセミナーハウスも造られた。あの原生林は県下でも数少ないもの一つであり、中川根町にとっても貴重な観光資源である。私も幾人かの人達をここに案内し、紅葉の頃にライオンズクラブの集会をこころほしく催したり、撮影会を開いたりした。

今日では自然保護の世論が高くなり、原生林保存に困難な事情はないだろうが、当時の私にとっては、最も情熱をこめて、全力を傾けた仕事であっただけに、なつかしく思い出される。原生林という言葉はよく耳にするし、誰でも簡単に口にすることが本物の原生林を地に足を付けて歩いた人は、すくなくはないだろう。うか、まだ行ったことのない方は、帰省の際にでも脚を伸ばして、ただだけは、郷里にもこんな処があったのかと思わせるにちがいない。

一九八八年 新春記

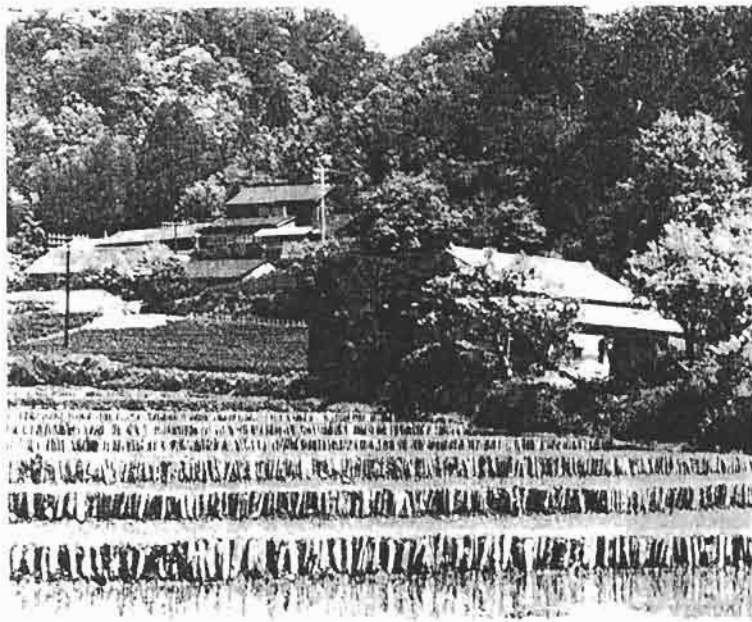
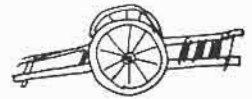


大礼山の赤ヤシオの花。見ごろ4月下旬

白ヤシオは、そば「粒山」に多く、5月上旬に開花します。原生林の木々は、季節を通して、行く人に、動物に、やさらさと、生命と与えてくれます

ふる里紹介

瀬沢平谷の巻



瀬平地区は旧中川根村の中心よりやや南側に位置し、国道三六二号線と県道金谷中川根線が丁字に交わっております。小学校区は南部小学校、花面跡を毎日元気に通っています。

瀬平地区は、大昔境川が流れた跡を型どっている瀬平地区、大井川の河岸段丘によって造られた平谷地区に別れております。又かつては西の渡、西又も瀬平地区だったのですが、現在人が住んでおりません。瀬沢石からも沢(小川)が多く、エビラ沢、西沢、竹の花沢、扇沢が集まり、杭田んぼを形造り、やがてつら沢になり境川に流れて流れて落ちておりました。平谷は、下長尾瀬平墓地を上原、少しずつ段になって、中の原、下の原、小田、大井川に面して平谷といふ地帯を形成して、み事は成茶園が繞ってあります。

戸数六十四戸の静かなたすまいからは昔を偲ぶ事は出来ませんが、かつては中川根村の中心地であり、産業文化の華開いた時期があった事を、原田耕作さんに伺いました。今回は瀬平の少く昔の様子をお送りします。

瀬沢名物 杭田んぼ
昭和32年6月 田植直後の様子
写真提供 鏡平さん
植村 耕作さん
原 田

村松嘉蔵公羽とお茶

今から約百年前、明治三年より村松翁により茶園を開き、後約三町歩の成園を造り、取れたお茶は横浜へ川根(茶)商店を出して売りとばき川根茶の宣伝をした。(明治二十二年より)

又品質向上に、務めアメリカ向け輸出も手がけ、明治二十六年には、シカゴコロンプス博覧会にて賞状をもらっている。

新道(荷車道)建設作業

瀬平のルートは、西の渡、西又、北遠と西から来たらしい事は判っています。が、明治初期まで使われていた道は、河内川(境川)つたいに、四十八度川を渡って西の渡へ行ったほどの悪路だったが、村松翁が自費で、平谷から原山(久保尾地区)まで荷車道を開く事業を為し遂げたのである。

明治十八年〜十九年瀬沢平谷間開通
明治二十二年〜二十四年瀬沢原山まで開通

原山までの工事は難工事であったという。新道建設に先きかけて村松翁は森町から鍛冶屋(村上長次郎氏)と呼びくわねと道路工具を作らせている。又、村人には口かせぎに弁当といくらかの賃金米と与えて手伝わってもらった。橋の数が十二あったので十二支の名(お橋、う橋、うさ橋、……)を付けたという。森町方面への最短距離と云う事で久保尾も境川をいルートで、昭和三十年代まで使用されていたが、今は廃道となっている。お茶の販売ルートの道ではあったらうら、大仕事であったと思う。

陸路に加之舟路による瀬平の繁栄

道路開通により久保尾周智森町方面との行き来が盛んになり瀬平には続々と家が建てられ、一方平谷は高瀬舟、木持搬送、浅瀬など通舟による物資の集散地となり、数々の産業も発達した。その内容は

- ・ 明治三十三年 松永医院の開業した。
 - ・ 明治四十五年 滝尾ミニカーミッション教習所開設
 - ・ 森町から荷車六台を買い入れ運送業が始まる(金沢運送店ほか)
 - ・ 植村牛乳店開店、又ミルク製造も始めた。(農家に牛を飼わせて、子牛を産ませ、牛乳を取る事をやっていたが農家は生活が苦しくやめて行かず、失敗に終わった)
 - ・ 旅館業、宿屋三軒、舟宿もたいへんはにぎわったという。
 - ・ 樟脳工場、昔西原寺というお寺のあり、現藤田計三さん長にあつた。
 - ・ 巡査駐在所もあった。
- この様に瀬平がもっとも繁栄した時代は川根第二の都(家山の沢)と言われ、大正年間には戸数は八十戸を越えたと言います。

敏時採時に催された事

- 明治十四年 大相模湖沢場物を開く（川付の川開き事）
- 明治二十九年 花火大会（七十発）中の二夜を出す
- 大正十年 （百三十五発）瀬沢本村を出す
- 村松俊介氏（島原籍出身）が洋樂隊で祭囃子を作ったり町場遊で地区のムウに飽厭や嫉妬と習った。
- 俊介氏は後場へ勤務して居り村松君さんと囃された人物だとして病んで早死にしようとした。
- 日露戦争殉死者慰霊祭が催された。
- 大正四十年 活劇写真上映（每時 半券付）

地区衰退は何故？

- 大正十五年 産葉組合（スズリ）が出来 商人に影が出はじめた。
- 大井川鉄道開通により 舟と陸路の便が不用となり、
- 昭和六年五月四日 大火事に見舞われ 地区の繁華街の灰と化する。

と主に三つの出来事が地区の衰退の要員にあげられると
言われています。



花面山の開き工事 大正三年



大井川 石岸より見た 現在の平谷 全景

蔵王神社参道

金山神社について

大正一年一月二十七日

信境に大井川を井川から流れて来たといふのが平谷の金山の先祖がもつて来たといふものでないかと考えられます
金山参のみことは金山の守り神といわれています。

鷗峯山のいわれ

遠京面草（約三三〇年前）朝野の使者が東海邊を通られた時 田中（陸路）の代官所より川花のそばに鶴と三つ大洞と見し七三三羽をいせせといふおれがでたそうです
この事からも江戸時代中期まで鷗の衆未だに採らるゝ鷗の羽を汁ませよ
場所だったのではなかと云われています
（マナ鷗十八鷗 コウソトリ トキ）



百五十余年続いたもの

平谷の流した川（村史）

文政十二年（約一五七三年以前）三月三日...
にの付て大井川に大五郎が居た。
水川河内の上崩れはより大井川のせきとあつた
それかすれ小川が急流の...
大... 渡宮の...
金谷町高瀬... 四十五八年...
橋原で百八十町... 次第...
よつて大井川の河内が...
冠水した地域の...
川と鎮の...
麦のついでと...
大井川に浮く... 津島...
他の地区では現在...
平谷では初... 以来一度と...
去年も今年も... 米...
なつた大井川に流した... 千和と...
奉納して...
（村史）

お知らせ コーナー

定価 1,800円

申し込み方法
① 振込用紙(局)にて、代金とお送
りいたしは、早速送料当方
負担にてお送りいたします。

宛先 〒428-003 静岡県榛原郡中川根町下長尾 477-4

「四季の星」中川根自然化粧品グループ

郵便振替口座 名古屋 0-21202

② 電話か葉書でも申し込んで下さい

TEL. 0547-56-0542

ヘチマ化粧水「ニートリイ」発売

中川根自然化粧品グループ
中村俊江

江戸時代、大奥の女性の化粧の水は、ヘチマ水だったということもご存知ですか。

私達はこの度、その昔から、女性の素肌美を作るために役立ってきたヘチマ水を使った化粧水を発売することになりました。

シミの原因となる酸化防止剤、殺菌剤、鉱物油、香料、色素などを排除し、添加物は必要最小限に抑えました。

化粧水としては、ヘチマの茎から採取したヘチマ水が最高であることを知り、私達グループは川根で栽培された画農薬、画化学肥料のヘチマの茎より採取したヘチマ水を100%使用して作り上げた自然化粧水です。

「ニートリイ」とは清潔なとか、さっぱりしたとかいう意味の造語です。

ヘチマ水の中に含まれている、サポニンや硝酸カリウムの働きで、色白のきめこまやかなみずみずしいお肌になるということですが、どうぞ、お試しになってみて下さい。そして水一滴も入れない本物の化粧水と中川根町の特産品のひとつとして、お土産、贈り物などにもご利用いただけますよう、お願いいたします。

使用者の声

藤川 久保 ことし

昔からヘチマ水が、美肌にとっても良いということを知り、たびたび耳にしたことがありましたが、若い時から美容に関心があった私は、いつも聞き流していました。ところが、もともと肌が弱かった私は、手を取るにつれ、肌荒れが目立ってきて、気がなかりは、めまい目まで、物はためしと、半信半疑でヘチマ水を使いはじめたのは、今から三年前のことですが、朝夕必ず使っています。使った後、しっとり肌になじみ、とてもさわやかです。

肌は艶かでてきました。自然化粧水、これなら肌が弱くても、季節を問わずに安心して使用できます。ヘチマ化粧水を信じて、本当に良かったと思います。これからも続け、愛用させていただきます。

定期購読のお願い

「中川根ふる里通信」は有料発行です。

1部 千共 100円

発株の定期購読申し込みが、この通信の発行を支えます。

年間4回(季刊誌)の発行を予定しておりますので、年間予約400円位、振込まれることを、おすすめます。すでに、郵問の切れている方と、今回ご滞頭になる方には、郵便振替用紙をお送りします。

引き続き、ご購読いただけます。うれしく思います。

申し込み先 〒428-003

静岡県榛原郡中川根町上長尾990

中川根ふる里通信係

郵便振替口座〈名古屋〉7-81556

電話のお問い合わせは

0547-56-0015 小沢節子宛

頌春

どうぞよろしくお願ひ申し上げます

今年も大和山に初日を拝み、登りました。山頂からの展望は、すばらしく掛川は、その浜松方面のあたりも澄み切った冬の空気を通し、手に取る様に見えます。御前崎の先端から駿河湾、伊豆半島まで海は光り輝き、富士の巔、赤石山脈には、わすかに雪化粧がはこび、わすかに、富士の巔、赤石山脈には、わすかに雪化粧がはこび、わすかに、御米光を受け、赤くそびえたっています。今年も平和でありますようにと、祈ります。

ふる里通信も新年を迎え、今年ほとんどお便りを差し上げようかという、考えます。どうぞ皆様もふる里通信を活用され、一層中川根との交流を深めていただき、と思ひます。又、正月には各層の同窓会、何ヶ所か聞かれました。久保尾小、久野脇小では、母校あとの集会所でもお集まり聞かれます。

